

世界ベンチプレス選手権大会報告

サブジュニア、ジュニア、一般、マスターズ

2016年4月19-24日、ロドビー、デンマーク

前半報告（マスターズ）

写真・報告：IPF 国際審判員

物 江 毅

ロドビーの風に吹かれて

4月18日19:30、成田から15時間かけてたどり着いたチームジャパンを歓迎するかのように、デンマーク・ロドビーのイベント施設 Lalandia には湿った冷風が吹いていた。体感的には日本の冬だ。海が近いので水分を含んだ冷気、明日からの世界 BP 大会、今回はどんなドラマが生まれるのか、旅の疲れと試合への期待・不安などいろいろな気持ちがあふれ交錯、前日に先着していた JPA 宮本会長や今回の団長・山口常務の出迎えを受けながら、ジャパンマスターズ BP チームは割り当てられた各ロッジに荷を解いた。

今回から IPF は、例年4月に開催していたマスターズ大会と5月開催の一般及び JR・SJR カテゴリを一緒にし、フルギア BP の世界大会を開催するという方針を決定した。ノーギアの世界大会は一月後南アフリカで開催される。そのため、大会規模が約倍になり、主管国の協会の負担は増加するが、BP の世界一を決めるという観点からは、スッキリとしたというべきであろうか。

実は5年前、東日本大震災直後の世界マスター BP 大会もこの会場で開催されている。私は前年9月の全日本 BP 大会直前に、身内の不幸があり不参加であった。その時から昨年まで5年連続、スーパー



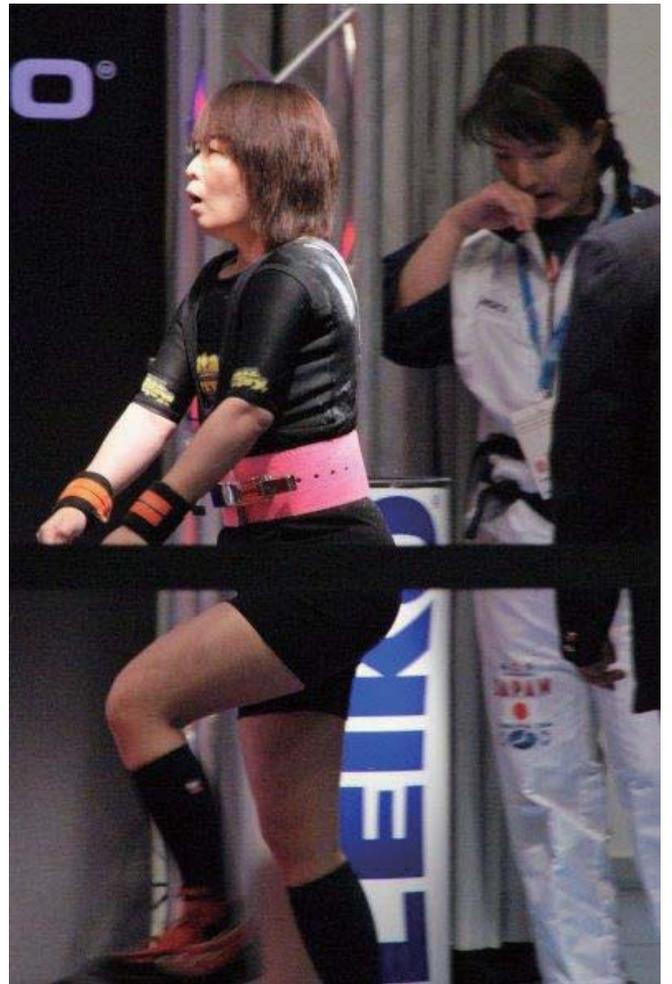
添乗員大胡さんの好サポートにより、ジャパンチームはとても快適な海外遠征を行っていた。今回、諸般の事情で久しぶりに JTB を採用、到着翌日の試合という日程を組まれたため、何名かの選手は足がつるなどの体調不良を呈した。JTB という大企業の力で往復航空運賃は確かに安かったが、せめて一日早い到着の旅程を組んで欲しかった。

ロドビーの風に迎えられた日本選手団

4月19日

試合が始まった。59・66kg級M1～4日本勢は59kg級に5名出場。M1中田和夫さん、M3伊差川浩之さんは、一試技のみ成功で各々順当に優勝。M2の橋本雅人さんは、奥さん同伴で神戸から参戦。第一、第二試技を順調にとり、銀メダルをかけた米国Jay選手との130kg合戦で、惜しくも押し切れず3位であったが、世界BP大会初参戦で、落ち着いた試技と、素敵な奥さんの応援にはとても好感が持てた。M3の飯塚さんは普段なら楽勝の110kgに残念ながら3試技とも失敗、コンディションの調整がうまくいかなかったようだ。M4の大瀧さんは第一試技80kgに成功後10kgUPの90kgに挑んだが、押し切れずドイツのWemer選手にかわされて3位という結果であった。

66kg級には各年代1名の4名が出場。M4の山本茂樹さんは今回も優勝、第三試技では世界記録更新を狙い128kgに挑戦した。足がつったとの事で残念ながら失敗であったが、堂々たる連覇である。M3には常勝の佐藤恵二さんが出場、ここ2年ほどはフランスの義足の強豪Claude選手に余力を残して勝利していたが、今回は第一試技の152.5kgのみ成功で、近年になく好調であったClaudeさんに体重差で逆転を許すという結果となった。M2には世界大会定連の神岡選手が出場。一時期故障で痛々しい印象であったが、今回は152.5－155と順調に成功、3位となった。このクラスの優勝者フランスのOliver選手は世界記録を連発、第三試技では大台の200kgに成功した。M1にはオープンの世界大会定連の池田尚也選手が出場したが、メインシャツの縫い目が袖口付近で急角度を描いていたことからコスチュームチェックが通らず、200kgを三試技とも失敗という残念な結果となった。



続いて女子47・52kg級M1～4が開催され、日本選手は各々4名、計8名の出場であった。

47kg級M4で現在大会三連覇中の奥村正子選手は、第一試技45kgを申請。ベンチに横たわる位置が主審寄りに来すぎてプレス途中ラックに当たり失敗、第二、三試技でもいつもの安定した奥村さんとは程遠い試技で同重量に失敗、大変残念な結果となってしまった。やはり足がつっていたとの事で、試合前日夜着、翌日昼試技開始という強行旅程がたたったものと思われる。試合が終わってから奥



素晴らしい集中力で優勝をゲット！酒巻選手



村さんとお話しさせていただいたが、とても前向きな姿勢は変わらず「リベンジのため、アジア BP 大会出場を考えます」と語っておられた。是非ともご出場いただきたい！

M2に出場された柴田昌美選手はボディビル出身、上述の山本茂樹さんとのご縁で、フルギアの指導は福田将志さんから受けている。今回1位の選手とは力的に差があるという事で、第一試技はノーギアで40kgに挑戦、落ち着いてこれを決め、第二試技からBPシャツを着用、第三試技で55kgに成功し、初出場で堂々の2位

と健闘した。英語も堪能な柴田さん、是非とも世界BP大会の定連になっていただきたい。

M1は日本が世界に誇る二人の昨年に引き続きの対決となった。安定度の餘語てるみさん、爆発力の宮本智子さんという対照的なお二人であるが、餘語さんは丁寧な試技で三試技とも成功、一方の宮本さんは第二試技90kgのみの成功という事で、今回も同記録体重差で餘語さんに勝利の女神が微笑んだ。二大会連続三試技全部白3で成功した餘語さん、本当に素晴らしかった。

52kg級M4には世界チャンプ兼世界記録保持者古川芳子選手が登場、今回も堅実な試技で第三試技では世界記録64kgに成功という素晴らしさであった。毎回接戦を展開するフランスのFrancoise選手にも6.5kg差をつける圧勝であった。

M2には三種の世界大会定連の寺村美香選手が世界BP大会初参戦。やはりフランスのChristin選手との接戦となったが、82.5 - 87.5 - 92.5と三試技とも成功。初参戦・初優勝と貫録を見せた。美香さんは往きの飛行機で私の隣席に移動してこられ、長時間会話させていただいた。PLの話は勿論の事、共通の趣味のスキーの話など大変楽しい時間であった。

M1には57kg級から階級変更した伊藤千帆選手と本年からマスターズとなった伊藤由実子選手のK's GYMの同僚が出演。ご主人の智さん、息子さん、お母さんの伊藤ファミリーで参戦した千帆さんが90kg、由実子さんが75kgでワンツーフィニッシュを飾った。由実子さんをご自分の試合終了後、日本選手の試技に盛んに声援を送っておられとても好感が持てた。是非ともこれから世界大会定連になっていただきたい。

この後簡単な開会式となり15:00から74kg級M1-2が開始された。この後のクラスに私が出場であったため、検量等で試技を見ておらず、結果のみの報告とさせていただく。M2



世界15連覇は、澤千代美選手

では松岡俊夫選手が 160kg で 2 位、M1 では 3 年前のチェコ・プラハ大会で残念な結果に終わった安江三千夫選手が見事に借りを返し 231kg の世界記録で優勝、松岡紀佳選手も 202.5kg で 2 位となり日本勢この日二度目のワンツーフイニッシュとなった。

17:00 からは 74・83 kg 級 M3-4 クラスの試合が行われた。日本選手は 74kg M3 に初出場林靖弘選手と私、M4 に安居民雄選手、83kg 級には今泉春樹選手が出場した。

M4 の安居さんは二年ぶりの世界 BP 大会であったが、落ち着いて三試技とも成功、115kg で見事 3 位となり表彰台に立った。いつも本当に腰が低い安居さん、私が人間こうありたいと思う人生の大先輩である。

83kg 級の今泉さんは今回国際大会初出場、後述する世界 MBP 大会チームジャパン最古参の河部勝次さんからスカウトされ、今回の出場に至った。第一試技 150kg に失敗した際は大丈夫かと心配したが、第二第三試技で持ち直し、155kg で 4 位となった。地力はかなり強い今泉さん、来年 M4 であるので、十分に表彰台に立つ可能性があると思われる。

今回 74kg 級 M3 に初出場された林さんは、昨秋の美濃加茂での全日本 BP 大会で、170kg を楽勝で挙げ出場権を獲得。練習では 190~200kg 程度を押ししていると SNS でコメントしておられた。鈴木佑輔さんのノーギア強化 BP 法を取入れこの 1~2 年でノーギアの記録を大幅に伸ばし、従来 140kg 台であったフルギア BP も大幅に自己記録を伸ばしての参戦であった。

また、このクラスのエントリーリストには、ドイツの Detlef 選手が 180kg の持ち記録と掲載されていた。

一方の私は昨年のデンバー・オーロラ大会に痛めた肩が結果的に骨折であったため、一時は 50kg の BP でも肩が痛く、競技引退を考えた事もあった。肩の MRI を撮った結果、鎮痛剤を飲み騙しながらであれば、トレーニング可という主治医の許可をもらったのが昨年の 7 月。そこからボルタレンを飲みながらのトレが始まった。必ずシャフト一本 20kg から BP をスタートし、慎重に調整していった結果、何とか美濃加茂



に間に合い、155kg という低調な記録ながら、世界 BP 大会の出場権を手に入れる事が出来た。3、4 年前の好調時、体重が 78kg 強で 190kg をプレスコール付きの公式戦同様試技で余裕をもって挙げていた頃とは、記録が 30kg もダウンしていたが、今回何とか表彰台に立つことを目標としてロドビーまでやって来た。

試合が始まった。私は UP 場で第一試技予定の 155kg を押したが決して完ぺきとは

言えない試技であったので、セコンドの佐藤恵二さんと相談して 152.5kg に重量変更、押し上げ軌道に乗

らなかったが、絶対重量が軽い事から最後まで押せ、右副審から赤が上がったが2:1で成功。第二試技は157.5kgを申請し、右のロックがあと一歩甘かったが、主審が赤・両副審が白で成功。第二試技終了時点で2位につけた。林さんは押し上げ軌道が首側にずれ、155 - 160と二試技とも失敗、Detlefさんは160 - × 162.5でまだ射程内であった。

もうこうなったら優勝以外狙い目はなく第三試技は162.5kgを申請した。ロットNo.が私より若く、体重が10g軽いDetlefさんが寸前に162.5kgに成功したため、すかさず165kgに重量変更し、同重量に挑んだが押し切れず試技終了。林さんも優勝を狙い165kgに挑み、これを押し切る寸前までいったがロック不完全で本当に惜しい記録なしに終わってしまった。Detlef選手の前に試技をした米国のDaniel選手が160kgに成功していたため、私は3位であった。

林さんは腰のヘルニアの具合が悪く、歩行にも苦労する程で、大変に残念な結果となってしまったが、試技終了後「次回二人でワンツーフイニッシュをしましょう！」と誓い合った。

19:00からは83kg級M1・2が行われ、日本選手はM1に大会定連の鈴木重成選手とK's GYMの宮本崇行選手が出場した。

鈴木さんは好調で、225 - 232.5と順調に成功し、第二試技終了時点で2位、第三試技は自己新となる240kgに挑んだが、残念ながら押し切れず、フランスのCyril選手にかわされて3位であったが、堂々の表彰台であった。宮本選手は初出場で残念ながら第一試技220kgのみ成功で、5位という結果となった。

4月20日

朝一の10:00から、女子M3・4の57・63・72kg級が開催され、57kg級M3に長尾優子選手、63kg級M3に古味良子選手が出場、ともに昨年オーロラ大会のチャンプである。

長尾さんはエントリーが一人であったので第一試技はノーギアで40kgを堅実にとり優勝確定。シャツを着て挑んだ第二試技75kgも順調に成功し、連覇達成。古味さんは昨年同様貫禄の試技で、第一試技100kgに楽々成功し、ほぼ連覇達成、第二試技105kgもすんなりと決め、第三試技では世界記録の115.5



様々な思いを抱えて、さよならパーティーに臨む日本マスター選手団

kgに挑む元気さであった。

12:00からは93kg級M3・4が行われ、私は副審を務めた。日本勢はM4にチームジャパン最古参の河部勝次選手とM3に2年ぶりの出場となるやはり大会常連の飯島修選手が出場した。

河部さんは昨年までマスターズ大会4連覇中、通算では6勝している。今回も当然優勝を狙っての参戦であったが、第一試技150kgの受けが悪く押せず、第二、三試技でも悪い流れを断ち切れず、残念ながら記録なしに終わってしまった。試技終了後「また、やり直すよ！ 世界大会、まだまだやめられないね！！」と語っておられた。

飯島さんもプレス軌道に乗らず、苦勞しておられたが200 - 205 - 210と結果的に三試技とも成功し、3位に入られた。その日の調子が今一でもきっちり結果を残すところは流石である。

15:00からは女子57・63・72kg級M1・2が行われ、57kg級M1に長江由美子選手、M2に酒巻知子選手、72kg級M1に工藤智恵子選手が出場。

長江さんは世界BP大会初出場、その愛らしい外見はとてもマスターズとは思えず、マスターBPのアイドルという印象だ。今回「仕事がお忙しくフルギアBPの調整が今一つです」といっておられたが、落ち着いた試技で三試技とも成功、競り合ってきたドイツのMartinaを抑えて見事3位の表彰台に立たれた。

マスターBP新女王酒巻さんは、M2になってから敵なしで、今回も95 - 102.5に成功し、競ってくる相手なく優勝確定した第三試技では22kgUPの124.5kgの世界記録に挑まれた。惜しくも不成功であったが、この先どこまで優勝回数を伸ばしていけるのか本当に楽しみである。

今大会で3回目の出場となる美白の女王・工藤智恵子さんは、過去二年世界大会で自己記録を更新、いい意味で何かやってくれさという期待を抱かせる選手で、昨年は見事2位に入られた。今回、全日本大会で出場した63kg級に140kg級の持ち記録を持つ選手が二人、110kgが一人エントリーしており、上位入賞を目指すために、57kg級に減量して出場する事も検討したが、当初伊藤千帆選手と長江由美子選手が同クラスにエントリーしていたため断念、昨年同様、増量して72kg級に出場する事を選択した。

第一試技90kgと軽めに入り順調に成功、第二試技では自己記録となる100kgにも見事成功し、この時点で5位。第三試技何kgを申請してくるかと思ったら何と10kgUPの110kgを選択、挙げれば暫定2位となる重量である。第一、二試技と同様に落ち着いた仕草でラックに横たわった工藤さん、ラックUP、受けはいいぞ。主審Claudia Nagataさんのコールがかかる。スタート！プレス！110kgのバーベルはゆっくり上がっていき、あと一歩押し切る前で止まってしまった……。それでも世界大会で公式戦自己記録を15kgも上回る練習でも持ったことがないという110kgを、あと一歩まで押し上げた精神力・技術力は、連覇を果たした酒巻さんにも負けない素晴らしさであると思う。



試技終了後、智恵子さんに「来年M2ですよ（頂点）獲りますよ！」と話しかけたところ「やります！！」という力強い返事が返ってきた。智恵子さんファンクラブ会員の私としても今大会至福の瞬間であった。

17:00からは93kg級M1・2が開始され私は主審を務めさせていただいた。一昨年のメルボルンアジアオセアニア共催大会PL

93歳ますます元気なSVEND選手と奥村選手、伊差川選手

の部、昨年の香港アジア PL 大会、オマーンアジア BP 大会に次いで 4 回目の国際大会主審であったが、国内大会同様選手が試技しやすい試合コートを仕切るといふ事を心掛けてのジャッジを行った。デンマークの補助団もテキパキと自分の仕事をこなしてくれ、よい流れで試合進行ができた。セッション終了後 IPF 技術委員長・ヨハン・ハニー・スミス氏から「Good job!!」と称賛された。このクラス M1 に竹村明久選手が出場、180kg に第二試技で成功、8 位という結果であった。

本日の最終回 19:00 からは女子 84・+84kg 級 M1～4 が行われた。

世界マスターズ BP 大会 14 連覇の澤千代美選手が 84kg 級 M3 に登場。最近ではパワーハウスの他に K'S GYM 横浜にも出稽古に行き今大会に備えた澤さんであった。私は 2006 年のマイアミ大会以来 10 年間、澤さんの試技を拝見してきたが、今回過去最高ともいえる試技で 100 - 110 - 120 と完璧に三試技を成功させ見事 15 連覇を達成された。

2, 3 年前までの澤さんの試技はプレス距離が短く、外国の審判からはフィニッシュ時に肘の曲がりを指摘されることが多々あったが、肘の治療と工夫したトレーニングにより見事に弱点を克服された。表彰式では区切りの連勝を飾ったという歓びと安堵感からか瞳が潤っていた澤さんであった。15 連覇、本当におめでとうございます!!!

84kg 超級 M1 には毎年進歩している小松麻実選手が登場。K's GYM で練習するようになってから格段に記録が伸び、練習では 130kg 程度の重量もこなしておられるとの事であった。今回 105 - 112.5 - 125 共後と三試技とも成功、体重差で 2 位と同重量の 3 位となった。工藤智恵子さん同様まだまだ上っていきそうな麻実さんであった。

4 月 21 日

10:00 から 105・120・+120kg 級 M3・4、12:00 から 120・+120kg 級 M2 が行われ、日本選手の出場はなく、約半数の日本人選手がフエリーで対岸のドイツのショッピングモール及び景勝地に行ってきた。私は 10:00 からのセッションで副審を務めた。

このセッション M3 では +120kg でドイツの Eberhand 選手とラトビアの Dainis 選手が世界記録合戦を展開、242.5kg で Eberhand 選手が優勝、Dainis 選手が 241kg で 2 位という結果となった。

M4 では、120kg 級でスウェーデンの Niilo 選手が 210kg、+120kg 級でラトビアの Valdis 選手が 202.5kg の世界記録を達成した。

12:00 からのセッションでは 120kg 級で大会定連アメリカの Doan 選手が 290.5kg の世界記録で優勝、+120kg 級は 300kg オーバーの世界新記録合戦となりとても見応えがあった。地元 John 選手が 309kg で見事に優勝、観客から大声援、拍手が送られていた。2 位は 308kg でノルウェーの Kjell 選手、3 位は 300kg でスウェーデン Robert 選手という結果であった。



思い思いのおしゃれ、日本女子

15:00 からは 105kg 級 M1・2 が行われ M1 に山森智行選手、M2 に伊藤智選手、中谷幸市選手が出場した。

伊藤さんは今回奥さんの千帆さんの際に述べたように、4 名ファミリーで参戦。冷静な試合運びで 240 - 242.5 と確実にとり、第三試技前に 3 位以上が確定した後、果敢に 2 位狙いの 272.5kg に挑戦した。結果は失敗であったが、堂々たる 3 位であった。

中谷さんは、今回伊差川さん、私と同室の選手兼審判部

屋宿泊であった。睡眠中無呼吸症候群を防止するために、日本から呼吸器を持ち込み、安眠をしていた事から、私は期待していた。ところが220kgと軽めに入った第一、二試技でバーを胸につけるのが精一杯で押せず失敗、第三試技230kgに増量して臨み、今度は胸に比較的容易に付き、そこからプレスしたが、すでに消耗しており最後まで押し切れず、記録なしに終わってしまった。試技後伺ったところ、

「第一試技は当初235kgを申請、UPで思ったよりバーが降りたので、230kgに変更したつもりで試技に臨みました。日本での練習では260kgを押し切っていたシャツですので、220kgでは本来胸に付くはずがなく、無駄な二試技で消耗してしまった事にどうにも納得できません」という怒りの見解であった。

セコンドとの意思疎通が原因であろうが、中谷さんの無念さを思うと、何とも悔やみきれない結果となり、私としても本当に残念であった。

山森さんは270 - 277.5と順調に成功し、第二試技終了時点で2位を確保していた。3位につけていたチェコのKhaled選手が第三試技で280kgに成功したが、山森さんは優勝を狙い300kgにチャレンジ、惜しくも失敗で結果として3位に甘んじた。試技後、控えスペースで涙を流していたとお聞きした。それでも3年前チェコ・プラハ大会で大変に惜しい4位であった時と比較して25kgも重量が伸び、ご不満であろうが表彰台に立ったという結果を一步前進と受け止め、是非とも次回表彰台の中央に立っていただきたい。

17:00からは日本選手は出場しないが、120・+120kg級M1クラスが開催された。私は毎年必ず最重量級の試技を見る事にしており、今回、安居さん、安江さん、鈴木重成さんらと観戦した。

+120kgで優勝したフィンランドのKenneth選手は、335 - 345と成功し、第三試技では世界記録375kgに挑む見せ場を作ってくれた。MCとバックグランドミュージックは最高の音量で盛り上げ、観衆も大声援を送ったが、惜しくも失敗であった。

その夜マスターズ選手のバンケットで団体戦及び個人ベストリフターの表彰が行われた。チームジャパンの成績は、

団体戦男子は M1 優勝 M2 3位 M3 2位 M4 3位

女子は M1 優勝 M2 3位 M3 優勝 M4 2位

M3で澤さんがベストリフター、古味さんが2位



M4. ベストリフターは、古川選手

という結果であった。

今大会、地元で 83kg級 M4 に出場し、検量体重 78.26kgで 70 – 75 – 80 と三試技とも成功した Svend 選手は 1922 年生まれの何と 93 歳。90 歳を超えて尚、ご自分の体重以上の BP を成功させる驚異の選手であった。バンケットで奥村さんとのショットを撮らせていただいた。いつまでもお元気で、これからも世界大会のご出場いただきたい！！

冷風が吹いたロドビーは我々マスターズの試合期間中は好天が続き、Lalandia 内を徒歩移動で試合会場に行く際、とても気持ち良かった。ただ、到着時と帰国時に重いトランクを引きずりながらの移動には閉口させられた。この地方夏場の平均気温が 14℃との事で、東京の酷暑とは程多い環境、北海道よりも寒いかもしれない。

今大会会場は、デンマーク協会が完璧に試合コートを作り上げ、UP 場と試合コートの BP ラックが異なっていた以外を除けば、ほぼ完璧であった。ユーストリーム中継も、カメラマン・音響担当等デンマーク放送局のプロスタッフが完璧にセッティング・遂行していた。2 年後の日本開催での世界 BP 大会、是非とも今回同様完璧なセッティングで遂行していただきたい！

4 月 22 日、コペンハーゲン空港移動前に、短い時間であったが市内観光をした。現地在住の日本人ガイドの方が案内してくれた運河沿いの街並みは大変に美しく、以前の世界大会で訪れたスロバキア・ブラティスラバの夜景街並み、一人で街を彷徨ったベルリン大聖堂やブランデンブルグ門、世界遺産の街チェコ・プラハなどと並び、また好きな街が出来た。ヨーロッパの古い街並み、出来れば一週間ほど彷徨って楽しみたい。競技引退後に実現できるであろうか？

今大会はフルギア BP の年齢全セッションの開催で、団長の山口 JPA 常務理事、大会顧問というお立場で参加された宮本 JPA 会長には、大会期間中大変お世話になった。私はある理由から、3 月末日で JPA から引退させていただいたが、これからも選手及び国際審判として、国際大会に参加させていただきたいと思っている。

選手・役員・付き添いの皆さん、ロドビーでは本当にお世話になり、有難うございました！ 今後とも何卒宜しくお願い致します！！



**お世話になった宮本 JPA 会長
と山口日本選手団団長**

後半報告（サブジュニア・ジュニア・一般）

平成26年5月3日

国士舘高等学校 パワーリフティング部顧問

中谷 幸市

4月19日～21日の前半のマスターズ日本選手団の試合は、男女M1,M2,M3,M4ともにメダルラッシュであり、団体戦も上位と大盛況の中、終了した。

21日夕方、マスターズの試合が終わったところで、サブジュニア・ジュニア・オープンの選手団が大会会場ランディアホリデーセンターに到着した。

ランディアのロビーから入ったところで、マスターズ選手団とサブジュニア・ジュニア・オープンの選手団が異国の地で懐かしの笑顔の再会で心を躍らせた。

マスターズ選手団は20時よりさよならバンケットで盛り上がり、サブジュニア・ジュニア・オープンの選手団は翌日22日の早朝からの試合に備えるべく早々に宿舎で体を休めた。

私は後半のサブジュニア・ジュニア・オープンの5つのセッションの審判担当により、コスチュームチェックや検量などで、すべてを見ることができないので、レポートに濃淡があるがご容赦願いたい。

【4月22日】

22日朝一番、サブジュニアの男子53kg級～74kg級からサブジュニア・ジュニア・オープンの各カテゴリーの後半戦がスタートした。

【男子サブジュニア53～74kg級】

先頭プレッサーは、田村 陽選手（神奈川県立厚木商業高等学校）だ。

K's 横浜の佐藤優輝先生（27年度一般105kg級日本チャンピオン）の指導を受け、村田 元輝選手に継ぐ精鋭である。

スタート重量125kg、第2試技137.5kgを着実に取り、第3試技で世界記録と優勝を狙った150.5kgを確実に成功するものの、リトアニアのValciukas選手に151kgを成功され、優勝と世界記録を持って行かれてしまった。（残念！）

しかし、初出場であり、全日本ベンチ（世界選考大会）の時より、50kgも記録がアップしての銀メダルは、大変立派である。

このセッションは、私のこの大会の最初のサイドレフェリーでもあった。

また団体戦は、田村選手1人だけの参加だったので、6位であった。

【女子サブジュニア43～+84kg級】

女子のトッププレッサーは、田村選手と同じく神奈川県立厚木商業高等学校で52kg級の赤澤 恋選手である。

この選手もK's 横浜の佐藤チルドレンであり、昨年の世界サブジュニアパワーと今回で海外2試合目だ。

減量に苦しんだのか、52.00kgで検量を終え、第1試技80kgを確実にとるが、第2試技87.5kgをほぼ完璧に上げたかと思えたが、フィニッシュで右が頭の方に流れてしまい惜しくも失敗。

対抗するロシアのShteinke選手が同重量を成功させた。

第3試技に優勝と相手にプレッシャーを与えるべく90kgに挑戦するが、これも惜しいところでフィニッシュ出来ず失敗した。

Shteinke選手は優勝を決定づけ、さらにと90kgに挑戦するが、これは7分ほどで押せなかった。

結果的には銀メダルであるが、十分優勝を狙えたので非常に惜しかった。

【男子サブジュニア 83 ~+ 120kg級】

このセッションに日本選手は出場していないが、特筆すべきは藤本竜希選手の世界記録 295kg に対し、第 3 試技で 296kg に挑戦したポーランドの Grzegorzczuk 選手(検量 100.33kg)が惜しいところまで押したことであり、将来マークすべき選手である。また、私はサイドレフェリーを務めた。

【女子ジュニア 43 ~ 57kg級】

女子 47kg 級では、世界サブジュニア・ジュニアパワーの常連、早川 琴果選手(関西学生連盟)が USA、UKR、RUS の選手と激戦を交わした。

<第 1 試技> USA の Warren 選手 75kg 成功。RUS の Burova 選手 80kg 成功。UKR の Muzina 選手 85kg 成功。

早川選手 85kg を軽く押すが主審白、サイドレフェリー 2 人ともお尻の浮きを取って失敗。

<第 2 試技> Warren 選手 85kg 成功。Burova 選手 85kg 成功。早川選手 85kg 白 2(主審・左サイドレフェリー)、赤 1(右サイドレフェリー)で成功。

(映像で見ると、足の位置が左右対称ではなく、右が半足分頭の方に引いており、バーを押す時に足の踏ん張りで左の尻は台に残っているが、右の尻は、バー下す時からフィニッシュまではっきり浮いて見える。)

Muzina 選手 90kg、挙がらず失敗。

<第 3 試技> Burova 選手 87.5kg、挙がらず失敗。Muzina 選手 90kg、挙がらず失敗。

早川選手 90kg をフィニッシュするが審判 3 人ともお尻の浮きを取り、失敗。

この時点で上位 4 人が同記録であり、体重差で順位が決定し、1 番軽い Warren 選手が優勝、続いて Muzina 選手、Burova 選手がメダリストとなり、残念ながら早川選手は 4 位とメダル獲得を逸してしまった。

Warren 選手は最後に 92.5kg に挑戦するがこれは押し切れない。

早川選手の力は 4 人の中で 1 番ありそうだったので、非常に惜しい戦いであった。

57kg 級では、櫻 由貴選手(神戸医療福祉大学)が確実に試技を重ね、3 本とも成功の銅メダルを獲得できた。



男子 59kg 級を制した木村選手

【男子ジュニア 53 ～ 83kg級】

53kg級では、森脇 滉人選手（岡山 関西学生連盟）が一本目をしっかり取って、銅メダル。

59kg級では、世界サブジュニア・ジュニアパワーで一昨年、去年と2年連続出場し、惜しくも金メダルは逃すものの、得意のベンチではワールドレコード取得の村田 元輝選手（神奈川 K's GYM 横浜）が、貫禄の金メダルをゲット。

66kg級では、岡田 治也選手（大阪 関西学生連盟）が225kgでジュニアのワールドレコード達成でぶっちぎりの金メダル

74kg級では、逢野 崇大選手（大阪 関西学生連盟・阪南大学）はRUSのDolgov選手との一騎打ちで、勝負は第3試技まで及び、惜しくも逆転で金メダルをさらわれてしまい、銀メダル獲得となった。

同じく74kg級の高山 由成選手（栃木 BIG GUNS）は、昨年の失格の悔しさをバネに、第2試技に200kgを取り、5位入賞を果たした。

83kg級では、村野 知永選手（大阪 関西学生連盟）が出場し、全日本の記録240kgを出せば優勝であったと思われるが、今年早々に交通事故で怪我をした影響で、思ったようなパフォーマンスができなかったようだ。記録なし。彼は、中学・高校と私の顧問をするパワーリフティング部の教え子であるが、親元を離れた生活の中で、自覚をもって責任感を強く持つように期待をしたが、未だに親御さんに心配をかけ、今回の渡航に関してもJPA並びに選手団に迷惑をお掛けした点は、猛省を望みたい。

【4月23日】

【女子ジュニア 63 ～ + 84kg級】

このセッションには、63kg級石橋 茜選手（関東学生連盟）1人だけのエントリーであったが、確実に112.5kg、117.5kg、125kgと3本成功し、2位と12.5kgの差を付け、完全優勝を達成した！

このセッションで女子ジュニアのすべてが終了し、たった3名で団体戦4位を獲得することができた！

また、石橋選手は、ベストリフター3位にも輝いた。

【男子ジュニア 93 ～ + 120kg級】

私は、このセッション、大会初の主審を務めた。（自身の国際審判では、昨年の世界サブジュニア・ジュニアパワーに続いて2回目）検量の時、各選手のパスポートの確認をするのであるが、中には今の顔より全く違って幼い写真の選手がいて、とても微笑ましく可愛らしかった。そのコーチは、その写真を指差し、「Baby Face!」と高笑いをしていた。

このセッションは93kg級の伊藤 壮志選手（北海道 北海学園大学パワーリフティング部）1人の出場であるが、攻めの姿勢で3本きっちり取り、銀メダルに輝いた。



これまでの7人の結果、男子ジュニアの団体戦はロシアの次で、2位となった。

【女子オープン 47 ～ 63kg級】

47kg級では、新井 拓子選手（神奈川 スーパーパワーアスリートクラブ）が出場したが、1本とれば優勝というところ、1本目100kg、胸から押し上げ7分の所でほんの少しぶれてフィニッシュした。判定は白1、青の反則カード赤2で失敗。

若干バーが下がったと判定されたよう

だ。(私は、バーが止まったが、下がってはないと判断する。)

2 本目同重量、プレスコールの後、今度はぶれずにフィニッシュ。

しかし、判定は黄の反則カード 2、青カード 1 で赤。今度はお尻が浮いて見えた。

3 本目同重量、一番安定して見えたが、白 1、青 1・黄 1 の赤 2 枚で、失格。

相手が 87.5kg で優勝だから、残念である。表情に憔悴の色濃く映った…

結果論だが、相手のスタート重量の力量を見て、少し緩めのシャツで 90kg を取って優勝を優先という手もあるかと思う。

52kg 級では、長屋 白川 カオリ選手 (東京 パワーハウス) が出場し、125kg スタートするが、お尻の浮きを取られて失敗、第 2 試技で修正し、白 3 つの成功、第 2 試技終了時点で、暫定 1 位。

第 3 試技で FIN の Kotkova 選手が 125kg を成功し、体重差で 1 位に上がる。

RUS の Golubeva 選手が白川選手より 10g 重いので、逆転するため 127.5kg に挑戦するが途中で止まった。この時点で白川選手は、銀メダル以上が確定。

しかし、金メダルを取るためには、127.5kg を成功しなければならない。

金メダルを引き寄せるため、最後の気合を入れ集中。バーは途中ぶれるが下がってはいない。判定は尻の浮きとダウンムーブの赤 3 本で失敗。

山口団長が抗議の準備をしたが、赤 3 本では無理である。

90g の体重差で金メダルを逃してしまった。(これも非常に惜しい戦いである。)

【男子オープン 59 ~ 66kg 級】

59kg 級では、木村 育史選手 (大阪 K's GYM) が出場し、エントリーから ダントツで、UKR、POL、NOR の選手を全く寄せ付けなかった。終わって見れば、2 位と 25kg 差の 210kg のワールドレコードで優勝を果たした。

66kg 級では、世界常勝の中山 久幸選手 (東京 ノーリミッツ) が登場し、スタート 220kg 取るが、この時点で 4 位という、とてつもないハイレベルな戦いとなった。



表彰式はみんな笑顔で。

UKRの Chuprinko 選手が好調で3本成功の241.5kgの世界記録で、RUSの Urusov 選手の猛追をかわして優勝した。中山選手は、肩の状態が芳しくないようで、第2、第3を最後のところで押し切れず、4位で終わった。

【女子オープン 72～+84kg級】

72kg級では、溝口久美選手（神奈川 K's GYM 横浜）が出場し、きっちりと3本（第1試技150kg白2、赤1で右のサイドレフェリーがお尻の浮きを取る。第2試技152.5kgも、3試技160kgも、結局3者同じ判定内容の成功。私は左サイドレフェリーで判定するが、すべてお尻が面に残っていると見て許容範囲と判断した。）取って、終わってみれば体重差（370g軽く）で優勝した。

対抗選手は、RUSの Chistiakova 選手が、スタートで溝口選手の第3試技重量160kgを挙げるが、第2、第3と167.5kgを失敗し、逆転を許してしまい2位となった。また、逆転を狙って、溝口選手より体重が230g重いNEDの Timmers 選手も162.5kgに挑戦するが、バーが途中で止まり、第2試技の157.5kgで3位となった。

Timmers 選手、Chistiakova 選手が続いて失敗していくので、薄水を踏む思いでバクステージで固唾を飲んで2人の試技のモニターを見ていた溝口選手とそのコーチ陣は最後の Chistiakova 選手が失敗した瞬間、はち切れるような大歓声が、左サイドレフェリーをしていた私の耳にも届いた。

このセッションで、女子オープンの試合が終了し、団体戦はジュニアと同様に3名の合計で4位を獲得した。

【4月24日最終日】

【男子オープン 74～83kg級】

74kg級では、言わずと知れた世界の KING 児玉大紀選手（大阪 K's GYM）が世界の熱い眼差しを浴びながら登場だ。世界一注目されている選手といっても過言ではないだろう。千両役者のような、風格さえ漂っている。

まず、エントリーから相手を寄せ付けず、ダントツで、全く危なげなく、確実に優勝のための試技をこなした。（第3試技301kgの世界記録は、惜しくも失敗であったが、これが、彼には許せない、悔しさだったのだ。）



素晴らしい優勝を飾った上田選手

通算 11 度目の優勝を当たり前のように、淡々とやってのけるところが、彼の人一倍の研究と努力の裏付けがある天才たるゆえんだらう。しかし、優勝をしても、「生の練習、地力は伸びているのに、ギアの調子が悪い。」としきりに反省の弁を語られた。彼のベンチに対する情熱と人生におけるベンチに関わる比重の高さに、ただただ感服である。

83kg級では、福島 勇輝選手(静岡 F・T GYM)が出場し、第 1 試技 305kgを決めて、優勝と 2 連覇を決定づけた。

追ってくる選手は一昨年優勝の RUS の Kniazev 選手で、昨年福島選手が雪辱を果たし、今年は Kniazev 選手が王座奪還を狙っていたのだろう、第 1 試技から 307.5kgで勝負を仕掛けるが、今日は押し切る力がない。第 3 試技に優勝と世界記録に重量を挙げて 311kgに挑戦するが、今日は精彩なく、バーは途中で止まった。

福島選手は、ベストリフター 3 位にも輝いた。

【男子オープン 93 ~ 105kg級】

このセッション、私の最後のレフェリーで左サイドを担当した。

93kg 級は、大室 豪槻選手(大阪 阪南大学カトルトレーニング部)は、第 1 試技 290kgのジュニアのワールドレコードでスタートして白 2、赤 1 で成功。この赤は、私が臀部が小刻みに震え、最大の踏ん張りの時にピクンと一瞬浮いたと判断したからである。第 2 試技でフィニッシュで詰まった 300kgを第 3 試技できっちり押し上げ、ジュニアのワールドレコード連発で、気を吐いた。しかし、周りが強く、1 位から 3 位まで 310kg以上のため 4 位入賞だが、

オープンのカテゴリーでこれは立派だ。

93kg級の 佐藤 優輝選手(神奈川 K's GYM 横浜主宰)は、全日本ベンチ大会で念願の初優勝 315.5kgは 105kg級(検量 95.15kg)だったので、階級を下げての出場(検量 91.74kg)である。スタート 312.5kgは、勝負へのこだわりなのであろう。しかし、1 本目からフィニッシュに詰まってしまう。結局、2 本目、3 本目も同様に最後の押し切りまで至らなく、失格してしまった。

105kg級では、葛西 昌彦選手(大阪 K's GYM)が、ちょっと大胸筋左側を痛められたらしい。

1 本目 292.5kgスタート、押し上げ中に左に傾くが白 2、赤 1 で成功。(試合後、白をつけたことに対して、お礼を言ってくれたが、バーの下がりがないので、確かな成功でしたと、返答した。)

2 本目、3 本目は最後のところで押し切れなかった。このクラスも強豪揃いで、7 位入賞で 4 点ゲットである。優勝は、RUS の Grishaev 選手で、336kgのワールドレコードを達成した。

【男子オープン 120 ~ + 120kg級】

6 日間に亘る今年すべてのカテゴリーの世界ベンチ大会は、このセッションのヘビーベンチの最高の盛り上がりで幕を閉じる。

120kg級の上田 真司選手(大阪 K's GYM)は、昨年、3 年前(+ 120kg級)と銀メダルで悔しい思いをし、一昨年は、大きな病気にまで見舞われ、大変な思いをされた。

今回、スタート重量 350kgをフィニッシュで失敗したものの、後は安定し



MC は大会を盛り上げる要となる

た試技で、350kg、355kgとワールドレコード連発で2位と20kg差で初優勝した。(最後の355kgを決めた後は、ベンチ台に仁王立ちで雄たけびの恒例のポーズ!) 会場が拍手と歓声でドッと沸いた。表彰式では、表彰台の一番高いところで、君が代を応援団と共に斉唱した。

今までの苦労が蘇ってきたのだろう、感極まって目に光るものが溢れ、表情が歪んだ。

こちらまで大感動をさせていただいた。(努力は裏切らないのだ!)

この試合で男子オープンの日本選手の戦いが終了し、団体戦は優勝を獲得、ベンチ王国日本の復活をアピールできた。

極めて明るい日本チームは、この団体優勝を心より喜んでいた。

この明るさが日本チームの結束を表していることらしい。

+120kg級は、日本選手が出場していないが、USAのLeo選手とFINのSmulter選手の400kg近い戦いに会場が最高潮の盛り上がりを見せ、大会を締め括った。

すべてが終わり、日本選手団はステージに集合し、デンマークの大会実行委員長 Anders・IPF技術委員長 スミス・ASIA連盟理事長ソルタニ・名物スピーカーのジーノらを交えて記念撮影を行った。

サヨナラパーティーでも、団体戦、ベストリフターと日本が上位に入り、ベンチ王国日本を印象付けた。大会実行委員長、IPF技術委員長が、日本はきちっとした統制力、節度ある態度に賛辞を送った。

昨年の世界パワーに引き続き、JPA宮本英尚会長が同行し、団長のJPA常務理事・国際委員長山口真人さんが、本当に献身的な仕事をされ、延べ70人からなる大選手団をまとめ切った。

宮本会長が疲れも見せず、朝1番から最後のセッションまで会場の1番前で応援をされるので、選手たちも気が引き締まったようだ。

また、M1で出場された、中田選手、池田選手が最初から最後まで山口団長の補佐的に仕事をされ、大いに貢献された。

何ら事故もなく、全選手で日本に帰国し、解団式で宮本会長、山口団長のスピーチの後、大拍手でお互いの健闘を称え、各自の家路についた。

私、個人的には、マスターズだけで帰国せず、昨年、一昨年世界サブジュニア・ジュニア大会に同行した選手たちの役に立てればと最後まで残り、IPFにも役員協力できてよかったと思う。

皆さま、本当に最高の体験をさせていただきました。

最強の日本選手団に関わって、本当に幸せでした。

ありがとうございました。

選手審判、大忙しの中谷選手。レポートありがとうございました。



INTERNATIONAL POWERLIFTING FEDERATION
World Men's Bench Press Championships, Rodby (Denmark), 19-24.04.2016

資料;IPFホームページより

男子の部

Open

-59kg

1.	Kimura Yasufumi	1975	JPN	58.80	240,0	210,0-w	220,0	210,0
2.	Garashchenko Igor	1988	UKR	58.97	180,0	185,0	190,0	185,0
3.	Wszola Dariusz	1978	POL	58.80	175,0	180,0	182,5	182,5
4.	Sledz Slawomir	1976	POL	58.71	175,0	180,0	182,5	180,0
5.	Myrvang Fredrik Eskil	1990	NOR	55.36	165,0	172,5	180,0	165,0
6.	Johnson Jesse	1990	GBR	58.45	110,0	120,0	120,0	110,0

-66kg

1.	Chuprinko Ivan	1986	UKR	65.92	235,0	240,5-w	241,5-w	241,5
2.	Urusov Yan	1989	RUS	65.55	225,0	235,0	241,0-w	241,0
3.	Virgilio Manuel	1974	FRA	65.75	222,5	227,5	227,5	222,5
4.	Nakayama Hisayuki	1963	JPN	64.24	220,0	225,0	225,0	220,0
5.	Balawejder Adam	1981	POL	65.97	210,0	227,5	227,5	210,0
6.	Gideon Aaron	1980	GBR	63.70	170,0	170,0	185,0	170,0

-74kg

1.	Kodama Daiki	1979	JPN	72.63	260,0	275,0	301,0	275,0
2.	Butenko Oleg	1983	KAZ	72.30	245,0	250,0	260,0	250,0
3.	Mashinskiy Arthur	1987	RUS	73.82	242,5	247,5	257,5	247,5
—	Hedman Christian	1982	SWE	73.74	220,0	220,0	220,0	DSQ

-83kg

1.	Fukushima Yuki	1986	JPN	81.50	305,0	310,0	311,5	305,0
2.	Miller Daniel	1988	POL	80.22	275,0	285,0	285,0	285,0
3.	Shokhanov Askar	1983	KAZ	82.54	277,5	287,5	287,5	277,5
4.	Andruchshenko Andriy	1987	UKR	82.55	250,0	260,0	277,5	260,0
5.	Hanifen Luke	1981	USA	82.48	250,0	260,0	260,0	250,0
6.	Beck-Gundersen Kim	1985	NOR	82.28	245,0	245,0	277,5	245,0
7.	Friche Mads	1982	DEN	82.64	217,5	222,5	235,0	235,0
8.	Guenterberg Raik	1989	GER	79.86	225,0	232,5	240,0	232,5
—	Kniazhev Sergey	1976	RUS	80.12	307,5	307,5	311,0	DSQ

-93kg

1.	Tebenkov Eduard	1990	RUS	91.82	310,0	315,0-c	318,5-w	318,5
2.	Mamola Adam	1977	USA	92.14	310,0	312,5	317,5	310,0
3.	Krymov Andrii	1985	UKR	92.36	300,0	310,0	317,5	310,0
4.	Omuro Goki	1993	JPN	86.28	290,0-wj	300,0	300,0-wj	300,0
5.	Grahl Thiago	1987	BRA	92.21	295,0	295,0	312,5	295,0
6.	Jader Fredrick	1979	SWE	92.26	290,0	300,0	310,0	290,0
7.	Navarsete Roger	1990	NOR	92.48	275,0	280,0	282,5	280,0
8.	Kankkonen Simon	1982	FIN	92.96	280,0	297,5	312,5	280,0
9.	Hildebrandt Michael	1984	GER	92.23	275,0	275,0	280,0	275,0
10.	Masahito Kitsui	1978	HKG	91.04	255,0	255,0	272,5	255,0
11.	Lohan Aaron	1983	GBR	88.41	205,0	215,0	220,0	220,0
12.	Christensen Alexander	1992	DEN	91.69	215,0	220,0	220,0	215,0
—	Sato Yuki	1983	JPN	91.74	312,5	312,5	315,0	DSQ
—	Wegiera Jan	1965	POL	92.39	300,0	300,0	312,5	DSQ
—	Navarsete Tommy	1978	NOR	92.58	267,5	267,5	280,0	DSQ
—	Hajiaghazorg Majid	1978	IRI	92.98	280,0	280,0	280,0	DSQ

-105kg

1.	Grishaev Vladimir	1981	RUS	102.54	317,5	325,0	336,0-w	336,0
2.	Dashzegve Tumenjargal	1987	MGL	104.31	305,0	315,0	320,0	320,0
3.	Jamroz Stefan	1980	SWE	104.94	310,0	310,0	320,0	320,0
4.	Bettiar Volodymyr	1984	UKR	101.97	305,0	312,5	317,5	317,5
5.	Grenier Allan	1990	FRA	105.00	307,5	317,5	320,0	317,5
6.	Obcowski Tomasz	1979	POL	104.10	300,0	300,0	315,0	300,0
7.	Kassai Masahiko	1971	JPN	103.28	292,5	307,5	315,0	292,5
8.	Fredriksen Erik	1992	NOR	103.15	272,5	272,5	290,0	290,0
9.	Karkula Marcin	1987	POL	101.91	260,0	290,0	290,0	260,0
—	Jaimes Luis	1989	USA	103.86	290,0	290,0	290,0	DSQ
—	Van der Putten Patrick	1980	NED	104.19	285,0	285,0	X	DSQ

-120kg

1.	Ueda Shinji	1972	JPN	118.72	350,0	350,0-w	355,0-w	355,0
2.	Stewart Brady	1982	USA	119.17	327,5	335,0	335,0	335,0
3.	Selezen Sergey	1980	RUS	119.46	320,0	335,0	350,5	335,0

4.	Oberg Christoffer	1985	SWE	118.91	330,0	330,0	335,0	330,0
5.	Pavlikov Ruslan	1978	RUS	116.99	325,0	342,5	342,5	325,0
6.	Matejik Fridrich	1983	SVK	119.90	285,0	300,0	342,5	300,0
7.	Melnyk Valeriy	1987	UKR	112.96	265,0	275,0	300,0	275,0
8.	Gross Rene	1981	GER	118.34	270,0	280,0	300,0	270,0
9.	Shahnavaz Majid	1981	IRI	110.98	255,0	255,0	280,0	255,0
—	Auerbach Jeremy	1987	USA	118.75	340,0	340,0	340,0	DSQ
—	Bataa Chimedtseren	1981	MGL	118.93	332,5	332,5	337,5	DSQ
—	Hole Per Marius	1989	NOR	119.43	325,0	325,0	332,5	DSQ
—	Bujinkham Altangerel	1976	MGL	119.65	330,0	340,0	345,0	DSQ

120+kg

1.	Leo Jonathan	1977	USA	158.24	390,0	390,0	392,5	392,5
2.	Smulter Fredrik	1983	FIN	154.96	387,5	390,0	402,0	390,0
3.	Lehto Ove	1972	FIN	147.88	350,0	357,5	370,0	370,0
4.	Svensson Fredrik	1979	SWE	152.24	370,0	375,0	390,0	370,0
5.	Soukal Jaroslav	1972	CZE	168.29	355,0	362,5	365,0	355,0
6.	Leesmann Kaido	1969	EST	132.35	300,0	312,5	320,0	320,0
—	Snyder Jeff	1971	USA	134.27	350,0	350,0	357,5	DSQ
—	McColl Alastair	1981	NOR	138.90	345,0	345,0	357,5	DSQ

Nation (points)

1.	Japan	55
2.	Russia	49
3.	Ukraine	43
4.	U.S.America	36
5.	Poland	35
6.	Sweden	27

Best Lifters of Open

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Leo Jonathan	U.S.America	158.24	392,5	215.52
2.	Smulter Fredrik	Finland	154.96	390,0	214.81
3.	Fukushima Yuki	Japan	81.50	305,0	205.85

Sub-Juniors

-53kg

1.	Valciukas Egidijus	1998	LTU	52.64	140,0	142,5	151,0-ws	151,0
2.	Tamura Yo	1999	JPN	52.70	125,0	137,5	150,5-ws	150,5
3.	Bexeiit Sultan	1998	KAZ	52.62	130,0	140,0	147,5	147,5
4.	Jedrzejewski Jakub	2001	POL	52.73	110,0	120,0	122,5	120,0
5.	Kinishchuk Rostyslav	1999	UKR	52.17	100,0	100,0	110,0	100,0

-59kg

1.	Rikhter Aleksey	1998	RUS	58.63	140,0	145,0	147,5	147,5
2.	Khabidulla Zhanassyl	1999	KAZ	58.38	130,0	135,0	145,0	145,0
3.	Kavaliauskas Faustas	1998	LTU	58.36	110,0	115,0	120,0	120,0
4.	Balogh Natan	2000	HUN	58.51	90,0	115,0	120,0	115,0

-66kg

1.	Tulegenov Kuanyshbay	1998	KAZ	65.30	160,0	160,0	165,0	165,0
2.	Bogdanov Aleksey	1998	RUS	64.50	150,0	157,5	162,5	162,5
3.	Skonieczny Michal	1998	POL	65.37	145,0	150,0	160,0	150,0
4.	Sukhbaatar Sukhbat	1999	MGL	65.31	120,0	130,0	152,5	130,0

-74kg

1.	Shaukatov Zhavlan	1998	KAZ	73.14	182,5	185,0	187,5	187,5
2.	Maleiko Vadim	1998	RUS	73.86	175,0	185,0	190,0	185,0
3.	Budziwol Karol	1998	POL	72.18	115,0	125,0	130,0	130,0

-83kg

1.	Smolkin Aleksey	1998	RUS	82.64	175,0	182,5	187,5	187,5
2.	Richards Cecil	1998	USA	82.03	175,0	182,5	187,5	182,5
3.	Nordstrom Nikolaj	1999	DEN	81.34	155,0	155,0	160,0	155,0
4.	Sutkus Tautvydas	1998	LTU	81.93	155,0	160,0	160,0	155,0

-93kg

1.	Shitko Igor	1998	RUS	92.78	220,0	220,0	238,5	220,0
2.	Freitas Leonardo	1999	BRA	92.19	180,0	220,0	220,0	180,0

-105kg

1.	Grzegorzczuk Dawid	1998	POL	100.33	275,0	275,0	296,0	275,0
2.	Kudrautsau Aleh	1998	LAT	101.25	220,0	225,0	232,5	232,5
3.	Abdurakhmanov Takhirzhan	1998	KAZ	98.82	147,5	157,5	170,0	157,5

-120kg

1.	Chvalov Vladislav	1998	RUS	107.20	120,0	135,0	140,0	140,0
----	-------------------	------	-----	--------	-------	-------	-------	-------

120+kg

1.	Tretyn Martin	1999	POL	134.93	180,0	190,0	190,0	190,0
2.	Ratcliff Ryan	1998	USA	134.12	137,5	155,0	180,0	155,0
Nation (points)								
1.	Russia	57						
2.	Kazakhstan	49						
3.	Poland	47						
4.	Lithuania	27						
5.	U.S.America	18						
6.	Japan	9						
Best Lifters of Subjuniors								
Rnk	Lifter		Nation	B.Weight		Result		W.Points
1.	Grzegorzczuk Dawid		Poland	100.33		275,0		167.15
2.	Valciukas Egidijus		Lithuania	52.64		151,0		146.30
3.	Tamura Yo		Japan	52.70		150,5		145.64
Juniors								
-53kg								
1.	Klimenko Georgii	1995	RUS	52.23	142,5	150,0	170,0	150,0
2.	Yadne Gennadiy	1994	RUS	52.13	130,0	137,5	150,0	137,5
3.	Moriwaki Hiroto	1995	JPN	52.46	110,0	120,0	120,0	110,0
-59kg								
1.	Murata Motoki	1997	JPN	58.30	170,0	180,0	205,5	180,0
2.	Makhmudov Alisher	1995	KAZ	58.45	172,5	182,5	182,5	172,5
3.	Hadas Pawel	1993	POL	59.00	100,0	135,0	145,0	135,0
-66kg								
1.	Okada Haruya	1996	JPN	65.87	215,0-wj	225,0-wj	240,5	225,0
2.	Caron Cyril	1994	FRA	65.62	167,5	182,5	182,5	182,5
-74kg								
1.	Dolgov Pavel	1993	RUS	73.58	215,0	215,0	222,5	222,5
2.	Ono Takahiro	1994	JPN	73.57	215,0	215,0	225,0	215,0
3.	Pecho Roman	1995	SVK	72.02	190,0	200,0	210,0	210,0
4.	Paszko Andrzej	1994	POL	71.38	190,0	205,0	212,5	205,0
5.	Takayama Yoshinari	1993	JPN	73.65	200,0	200,0	207,5	200,0
6.	Fazekas Tibor	1996	HUN	73.11	110,0	170,0	175,0	170,0
-83kg								
1.	Shaibekov Vladislav	1995	RUS	82.52	215,0	225,0	232,5	232,5
2.	Bakken Sebastian Daudon	1993	NOR	80.80	197,5	202,5	215,0	215,0
3.	Reiss Andrew	1994	USA	82.49	207,5	215,0	225,0	215,0
4.	Vari-Szalai Gergo	1996	HUN	82.40	170,0	180,0	185,0	180,0
5.	Dahl Mickel	1996	DEN	82.88	150,0	155,0	160,0	150,0
—	Murano Tomohisa	1994	JPN	78.39	220,0	220,0	232,5	DSQ
-93kg								
1.	Schuster Easton	1996	USA	90.15	242,5	245,0	260,0	260,0
2.	Ito Soshi	1995	JPN	92.18	205,0	212,5	225,0	225,0
3.	Kojder Michal	1997	POL	90.04	205,0	220,0	245,0	220,0
4.	Czerwicki Szymon	1996	POL	84.59	200,0	210,0	222,5	210,0
5.	Flueras Christian	1996	GER	89.90	187,5	200,0	212,5	200,0
-105kg								
1.	Hintzke Mariusz	1994	POL	97.35	300,0-wj	310,0-wj	320,0-wj	320,0
2.	Male Ralf	1994	NOR	103.28	257,5	262,5	270,0	270,0
3.	Martinsson Christian	1993	SWE	104.04	252,5	260,0	267,5	267,5
4.	Sypka Kamil	1994	POL	100.58	240,0	250,0	260,0	260,0
5.	Hansson Conrad	1994	SWE	104.28	250,0	260,0	265,0	250,0
6.	Haerter Daniel	1995	GER	104.01	230,0	240,0	255,0	240,0
7.	Weiss Jacob	1995	USA	101.52	230,0	242,5	262,5	230,0
-120kg								
1.	Jaeger Kevin	1995	GER	120.00	317,5	343,5	343,5-w	343,5
2.	Samuelsson Viktor	1993	ISL	119.60	285,0	290,0	317,5	290,0
3.	Vasyliov Yevhen	1993	UKR	116.15	265,0	275,0	280,0	280,0
4.	Skrib Lukas	1994	SVK	109.81	240,0	260,0	277,5	277,5
5.	Mainz Jacob	1993	DEN	119.64	260,0	267,5	277,5	267,5
6.	Nazelrod Tristan	1996	USA	116.64	242,5	260,0	280,0	242,5
120+kg								
1.	Usov Sergey	1993	RUS	121.96	305,0	317,5	330,0	330,0
2.	Caruso John	1993	USA	129.83	260,0	280,0	295,0	295,0
3.	Gestsson Viktor Ben	1996	ISL	143.08	295,0	295,0	297,5	295,0
4.	Mellor Graham	1994	GBR	159.73	280,0	290,0	290,0	280,0
—	Kennedy Cody	1995	USA	125.98	260,0	260,0	260,0	DSQ

Nation (points)

1.	Russia	57
2.	Japan	50
3.	Poland	42
4.	U.S.America	38
5.	Germany	23
6.	Norway	18

Best Lifters of Juniors

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Jaeger Kevin	Germany	120.00	343,5	197.48
2.	Hintzke Mariusz	Poland	97.35	320,0	196.93
3.	Usov Sergey	Russia	121.96	330,0	189.02

Masters 1

-59kg							
1.	Nakata Kazuo	1967	JPN	58.77	175,0	198,0	175,0
-66kg							
1.	Bernard Mickael	1970	FRA	64.83	197,5	202,5	202,5
2.	Holmgren Marcus	1975	SWE	65.78	140,0	152,5	160,0
—	Ikeda Naoya	1970	JPN	63.54	200,0	200,0	DSQ
-74kg							
1.	Yasue Michio	1970	JPN	73.78	225,0	231,0-w1	244,0
2.	Matsuoka Kiyoshi	1971	JPN	73.81	192,5	202,5	231,5
3.	Zelazko Bartosz	1973	POL	73.25	190,0	200,0	202,5
4.	Szendera Rafal	1971	POL	73.77	170,0	170,0	192,5
5.	Kirkhaug Espen	1971	NOR	73.69	165,0	165,0	165,0
6.	Larsen Klaus	1972	DEN	72.86	155,0	165,0	165,0
-83kg							
1.	Schick Markus	1976	GER	82.59	242,5	245,0	260,5
2.	Pinguet Cyril	1972	FRA	82.03	230,0	235,0	240,0
3.	Suzuki Shigenari	1973	JPN	82.59	225,0	232,5	240,0
4.	Vikla Tomi	1970	FIN	82.88	225,0	232,5	242,5
5.	Miyamoto Takayuki	1973	JPN	81.56	220,0	230,0	232,5
6.	Bertin Fabrice	1967	FRA	82.59	205,0	210,0	217,5
7.	Melchiorson Michael	1972	DEN	82.63	210,0	210,0	215,0
8.	Khosravi Mirzaei Mohammadreza	1969	IRI	82.50	180,0	182,5	192,5
9.	Glowacz Lukasz	1976	POL	82.12	150,0	152,5	162,5
—	Ruelan Miguel	1970	USA	81.61	215,0	215,0	DSQ
—	Munkhuu Ankhbaatar	1970	MGL	82.80	232,5	232,5	237,5
-93kg							
1.	Nocek Grzegorz	1973	POL	91.13	265,0	270,0	272,5
2.	Lamjav Munkhbayar	1976	MGL	92.66	255,0	257,5	272,5
3.	Wetzstein Thomas	1974	AUT	91.78	255,0	260,0	260,0
4.	Grohoski Pete	1970	USA	92.63	250,0	257,5	262,5
5.	Hellerud Alf Ivar	1969	NOR	91.45	230,0	230,0	257,5
6.	Marneur Michel	1968	FRA	91.98	230,0	250,0	257,5
7.	Jensen Henrik Bo	1967	DEN	92.54	205,0	215,0	222,5
8.	Takemura Akihisa	1973	JPN	91.79	180,0	180,0	215,0
—	Laurikainen Petteri	1969	FIN	91.83	240,0	240,0	240,0
-105kg							
1.	Anderson Timothy	1972	USA	103.44	292,5	295,0	318,0
2.	Ghazal Khaled	1972	CZE	104.60	262,5	267,5	280,0
3.	Yamamori Tomoyuki	1972	JPN	103.97	270,0	277,5	300,0
4.	Beyon Frederic	1975	FRA	103.59	240,0	250,0	267,5
5.	Green Martin	1974	GBR	104.44	250,0	257,5	257,5
6.	Tornes Henning	1976	NOR	104.25	227,5	232,5	237,5
7.	Kraakenes Arild	1968	NOR	104.76	225,0	230,0	252,5
8.	Kraemer Thomas	1970	GER	103.79	210,0	217,5	225,0
9.	Wilson Don	1968	USA	103.03	215,0	222,5	232,5
10.	Clavier Arnaud	1975	FRA	104.01	200,0	212,5	220,0
11.	Rindemark Mats	1970	SWE	103.80	217,5	222,5	222,5
12.	Rasmussen Joergen Michael	1973	DEN	104.27	160,0	170,0	172,5
13.	Lillbacka Timo	1975	FIN	103.87	100,0	X	X
—	Rukkila Timo	1972	FIN	103.64	170,0	170,0	170,0
-120kg							
1.	Blomgren Conny	1968	SWE	118.77	300,0	302,5	310,0
2.	Kompelien Olav	1972	NOR	118.18	287,5	295,0	295,0
3.	Leinonen Lasse	1973	FIN	119.40	295,0	302,5	305,0

4.	Krejca Zbynek	1974	CZE	119.85	295,0	302,5	305,0	295,0
5.	Duval Charles	1972	FRA	119.62	290,0	300,0	302,5	290,0
6.	Christalle Jens	1970	GER	114.18	265,0	300,0	302,5	265,0
7.	Skov Thomas	1971	DEN	119.76	252,5	252,5	252,5	252,5
—	Ruck Vico	1974	GER	119.33	245,0	245,0	262,5	DSQ
—	Guddal Pal	1971	NOR	119.74	310,0	310,0	310,0	DSQ

120+kg

1.	Sandvik Kenneth	1975	FIN	142.78	335,0	345,0	375,0	345,0
2.	Janak Frantisek	1975	CZE	129.38	307,5	315,0	322,5	322,5
3.	Pinc Jan	1973	CZE	129.09	280,0	280,0	292,5	292,5
4.	Guidez Jerome	1974	FRA	143.28	290,0	310,0	310,0	290,0
5.	Kretzschmar Robert	1976	GER	129.06	285,0	300,0	300,0	285,0
6.	Dahl Orjan	1970	SWE	148.52	280,0	280,0	295,0	280,0
7.	Hofmann Jan	1972	DEN	123.58	225,0	227,5	235,0	235,0
—	Purev Boldbaatar	1972	MGL	139.16	300,0	300,0	302,5	DSQ

Nation (points)

1.	Japan	49
2.	France	41
3.	Czechia	33
4.	Norway	30
5.	Poland	29
6.	Finland	28

Best Lifters of Masters 1

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Sandvik Kenneth	Finland	142.78	345,0	192.23
2.	Janak Frantisek	Czechia	129.38	322,5	182.57
3.	Anderson Timothy	U.S.America	103.44	295,0	177.24

Masters 2

-59kg

1.	Kolsovsky Stefan	1961	SVK	58.50	137,5	140,0	145,0	145,0
2.	Helms Jay	1964	USA	58.56	122,5	130,0	130,0	130,0
3.	Hashimoto Masato	1957	JPN	58.04	122,5	125,0	130,0	125,0

-66kg

1.	Waymel Olivier	1966	FRA	65.78	180,0-c2	185,0-c2	200,0-c2	200,0
2.	Smith Charles	1960	NED	65.13	165,0	170,0	170,0	165,0
3.	Kamioka Shunsuke	1957	JPN	65.39	152,5	155,0	157,5	155,0
4.	Jauhojarvi Tahvo	1961	FIN	65.76	135,0	140,0	145,0	145,0
5.	Nakamura Hideaki	1960	JPN	65.58	130,0	130,0	130,0	130,0
6.	Wunderlich Frank	1964	GER	64.81	120,0	125,0	125,0	120,0

-74kg

1.	Cucuzzella Alphonse	1966	FRA	73.07	200,0	207,5	213,0-w2	213,0
2.	Matsuoka Toshio	1963	JPN	72.50	160,0	200,0	207,5	160,0
3.	Leski Grzegorz	1958	POL	73.48	135,0	140,0	162,5	140,0
4.	Olsen Gert	1963	DEN	73.25	130,0	135,0	140,0	130,0

-83kg

1.	Saunamaki Jukka	1961	SWE	82.70	205,0	210,0	217,5	210,0
2.	Valentinsen Sigve	1960	NOR	82.91	205,0	210,0	215,0	210,0
3.	Thompson Donovan	1966	USA	81.95	207,5	212,5	212,5	207,5
4.	Cencich Thomas	1960	USA	82.78	200,0	200,0	210,0	200,0
5.	Gent Axel	1963	GER	82.00	192,5	197,5	205,0	197,5
6.	Ring Tomas	1960	SWE	82.37	195,0	205,0	210,0	195,0
7.	Friedrich Veiko	1964	GER	80.73	165,0	165,0	170,0	165,0
8.	Mingot Georges	1964	FRA	81.51	160,0	165,0	167,5	160,0
9.	Dadley William	1964	GBR	81.70	140,0	150,0	155,0	150,0
—	Van Kersbergen Jos	1957	NED	82.35	165,0	165,0	X	DSQ

-93kg

1.	Van der Putten Frans	1962	NED	92.65	255,0	257,5	260,0	255,0
2.	Hering Uwe	1963	GER	92.69	225,0	230,0	232,5	230,0
3.	Boughamdouz Gemel	1963	FRA	92.11	217,5	225,0	225,0	217,5
4.	Ericson Peter	1963	SWE	92.50	195,0	202,5	205,0	205,0
5.	Brown James	1965	USA	91.57	187,5	202,5	217,5	202,5
6.	Bertelsen Soren	1961	DEN	92.39	195,0	200,0	200,0	195,0
7.	Hirvonen Risto	1961	FIN	86.92	125,0	132,5	140,0	140,0
8.	Belsher Glyn	1958	GBR	91.34	120,0	127,5	135,0	127,5
—	Kerimbekov Bakyt	1961	KGZ	92.20	235,0	235,0	235,0	DSQ
—	Kati Jiri	1965	CZE	92.40	252,5	255,0	255,0	DSQ

-105kg

1.	Hadrysiak Mariusz	1961	POL	104.98	272,5	282,5	285,0	285,0
2.	Ferrantelli Mike	1966	USA	103.88	257,5	272,5	282,5	282,5
3.	Ito Satoshi	1966	JPN	103.50	240,0	242,5	272,5	242,5
4.	Dominik Wieslaw	1965	POL	104.20	242,5	242,5	247,5	242,5
5.	Szezepanski Philippe	1964	FRA	102.90	235,0	240,0	245,0	240,0
6.	Leroy Fabrice	1963	FRA	103.93	225,0	237,5	245,0	237,5
7.	Dabeski Mio	1965	SWE	103.24	180,0	195,0	202,5	202,5
8.	Green Mats	1964	SWE	99.86	200,0	207,5	207,5	200,0
9.	Sharov Oleksandr	1964	GER	104.17	185,0	192,5	200,0	200,0
10.	Hammond Paul	1963	GBR	102.90	180,0	190,0	210,0	190,0
11.	Vanhamaki Tarmo	1960	FIN	99.16	170,0	180,0	190,0	180,0
—	Nakatani Koichi	1960	JPN	104.30	220,0	220,0	230,0	DSQ

-120kg

1.	Doan David	1964	USA	119.01	277,5	280,0	290,5-w2	290,5
2.	Voldseth Kurt Einar	1966	NOR	119.64	230,0	240,0	250,0	250,0
3.	Faass Rolf	1965	GER	116.52	180,0	190,0	195,0	195,0
—	Jaldefors Mikael	1966	SWE	119.49	275,0	275,0	275,0	DSQ

120+kg

1.	Christensen John	1961	DEN	132.46	300,0-c2	307,5-w2	309,0-w2	309,0
2.	Furesund Kjell	1966	NOR	135.95	290,0	302,5	308,0-w2	308,0
3.	Blom Robert	1966	SWE	133.74	300,0	300,0	308,5	300,0
4.	Haug Georg	1965	GER	148.94	245,0	250,0	250,0	250,0
5.	Thielking Udo	1961	GER	134.01	235,0	235,0	240,0	235,0
6.	Tomas Malm	1966	SWE	132.28	205,0	210,0	210,0	210,0
7.	Vestergaard Jan	1966	DEN	128.48	200,0	207,5	207,5	200,0
—	Gaudreau Daniel	1960	USA	140.97	275,0	275,0	275,0	DSQ
—	Gillespie William	1959	USA	145.03	290,0	290,0	302,5	DSQ

Nation (points)

1.	U.S.America	45
2.	France	43
3.	Japan	39
4.	Sweden	37
5.	Germany	36
6.	Denmark	28

Best Lifters of Masters 2

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Christensen John	Denmark	132.46	309,0	174.18
2.	Furesund Kjell	Norway	135.95	308,0	172.88
3.	Hadrysiak Mariusz	Poland	104.98	285,0	170.32

Masters 3

-59kg

1.	Isagawa Hiroyuki	1953	JPN	57.15	140,0	147,5	150,0	140,0
2.	Vorobjovs Jevgenijs	1953	LAT	58.28	142,5	112,5	115,0	115,0
—	Iitsuka Shinichi	1956	JPN	58.14	110,0	110,0	110,0	DSQ

-66kg

1.	Sitruk Claude	1950	FRA	65.40	147,5	152,5	157,5	152,5
2.	Sato Keiji	1952	JPN	65.91	152,5	157,5	157,5	152,5
3.	Sundstol Birger	1954	NOR	65.44	102,5	107,5	110,0	110,0
4.	Flink Seppo	1953	FIN	65.21	102,5	105,0	107,5	107,5

-74kg

1.	Heinrich Detlef	1956	GER	73.22	160,0	162,5	162,5	162,5
2.	Sides Daniel	1956	USA	73.56	145,0	150,0	160,0	160,0
3.	Monoe Takeshi	1952	JPN	73.23	152,5	157,5	165,0	157,5
4.	Kauranen Antero	1948	FIN	73.52	150,0	157,5	157,5	150,0
5.	Male Roy	1955	NOR	72.56	125,0	130,0	130,0	125,0
—	Hayashi Yasuhiro	1956	JPN	72.90	155,0	160,0	165,0	DSQ

-83kg

1.	Synstad Bjarne	1951	NOR	81.93	205,0	210,0	217,5	205,0
2.	Fugiel Miroslav	1955	POL	82.72	172,5	177,5	182,5	182,5
3.	Kuchnio Krzysztof	1956	POL	82.02	170,0	175,0	180,0	180,0
4.	Imaizumi Haruki	1947	JPN	81.72	150,0	150,0	155,0	155,0
5.	Liimatainen Jorma	1953	SWE	81.29	145,0	150,0	152,5	152,5
6.	Baumeister Gerhard	1952	GER	81.82	150,0	150,0	175,0	150,0
7.	Collard Alain	1952	FRA	81.51	145,0	150,0	152,5	145,0
8.	Ahopelto Voitto	1956	FIN	82.44	135,0	147,5	152,5	135,0

-93kg

1.	Mentel Stanislaw	1954	POL	92.76	220,0-w3	227,5-w3	235,0	227,5
----	------------------	------	-----	-------	----------	----------	------------------	-------

2.	Ehrt Hans-Jurgen	1956	GER	90.13	240,0	210,0	212,5	212,5
3.	Iijima Osamu	1954	JPN	88.04	200,0	205,0	210,0	210,0
4.	Williams David	1953	GBR	89.15	185,0	192,5	200,0	200,0
5.	Durocher Laurent	1952	FRA	91.10	155,0	165,0	170,0	170,0

-105kg

1.	Reimann Helmut	1951	GER	102.22	200,0	205,0	207,5	207,5
2.	Iversen Bjorn	1955	SWE	104.55	195,0	202,5	207,5	207,5
3.	Richter Werner	1947	GER	102.39	195,0	202,5	207,5	202,5
4.	Den Ouden Paul	1954	NED	100.24	185,0	192,5	202,5	192,5
5.	Tirronen Harri	1953	FIN	104.10	185,0	192,5	202,5	192,5
6.	Pokorny Janos	1952	HUN	103.70	180,0	180,0	195,0	180,0
7.	Flett Martin	1956	GBR	103.44	160,0	160,0	182,5	160,0
8.	Thyssing Hans	1953	DEN	100.68	155,0	162,5	182,5	155,0

-120kg

1.	Ringvold Vidar Alexander	1955	NOR	107.76	205,0	215,0	220,0	215,0
2.	Falk Hans-Peter	1951	GER	113.36	200,0	210,0	220,0	210,0
3.	Fuglsang Allan	1950	DEN	111.04	185,0	190,0	200,0	190,0
4.	Mracek Franz	1947	AUT	112.55	170,0	175,0	180,0	175,0

120+kg

1.	Schwanke Eberhard	1953	GER	146.35	220,0	222,5	242,5-w3	242,5
2.	Reinholds Dainis	1951	LAT	125.04	241,0	241,0	241,0-w3	241,0
3.	Crawford Robert	1951	USA	139.22	175,0	187,5	200,0	200,0
4.	May Karl-Heinz	1953	GER	125.59	185,0	190,0	200,0	190,0

Nation (points)

1.	Germany	54
2.	Japan	44
3.	Norway	38
4.	Poland	29
5.	Finland	23
6.	France	22

Best Lifters of Masters 3

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Mentel Stanislaw	Poland	92.76	227,5	143.10
2.	Synstad Bjarne	Norway	81.93	205,0	137.90
3.	Reinholds Dainis	Latvia	125.04	241,0	137.32

Masters 4

-59kg

1.	Gallart Pierre	1944	FRA	57.96	100,0	110,0	115,0	115,0
2.	Werner Ludwig	1938	GER	58.70	75,0	80,0	82,5	82,5
3.	Otaki Masami	1942	JPN	54.93	80,0	90,0	90,0	80,0

-66kg

1.	Yamamoto Shigeki	1943	JPN	65.41	110,0	117,5	128,5	117,5
2.	Johansson Mats	1945	SWE	64.97	85,0	95,0	97,5	95,0
3.	Little Roger	1942	GBR	65.61	57,5	62,5	67,5	62,5

-74kg

1.	Maka Boleslaw	1942	POL	73.43	145,0	145,0	151,0-w4	151,0
2.	Dernoncourt Michel	1946	FRA	72.28	142,5	147,5-c4	150,5-w4	150,5
3.	Yasui Tamio	1942	JPN	73.12	105,0	110,0	115,0	115,0

-83kg

1.	Settles Mike	1944	USA	81.50	142,5	150,0	156,5-w4	156,5
2.	Lorenz Horst	1940	GER	77.31	125,0	130,0	135,0	130,0
3.	Ahle Arthur	1941	GER	81.63	110,0	115,0	120,0	115,0
4.	Stensgaard Svend	1922	DEN	78.26	70,0	75,0	80,0	80,0

-93kg

1.	Jorgensen Hans Jorgen	1944	DEN	88.04	150,0	155,0	157,5	157,5
2.	Slinger Malcolm	1945	AUS	89.60	145,0	155,0	160,0	155,0
3.	Komppa Seppo	1945	FIN	92.03	150,0	155,0	160,0	155,0
4.	Fabrie Adriaan	1946	NED	92.52	120,0	130,0	130,0	120,0
5.	Edwards Mike	1946	GBR	91.19	115,0	122,5	122,5	115,0
—	Will Harald	1940	GER	90.15	150,0	150,0	157,5	DSQ
—	Kawabe Katsuji	1944	JPN	92.26	150,0	150,0	157,5	DSQ

-105kg

1.	Collins Tom	1946	GBR	102.74	182,5	193,5-w4	201,5	193,5
2.	Evans Robert	1946	USA	103.95	155,0	162,5	172,5	162,5
3.	Hildebrandt Lothar	1943	GER	100.75	140,0	147,5	150,0	150,0
4.	Moore John	1937	USA	98.75	125,0	130,0	135,0	130,0
5.	El Alami Mujir	1946	SWE	104.30	125,0	142,5	150,0	125,0

6.	Rohrbacher Adolf	1938	AUT	93.25	115,0	125,0	125,0	115,0
—	Pasternak Daniel	1936	SWE	95.96	120,0	120,0	120,0	DSQ
-120kg								
1.	Maliniemi Niilo	1946	SWE	117.65	210,0-w4	220,0	220,0	210,0
2.	Hermann Josef	1946	GER	113.89	165,0	170,0	172,5	165,0
—	Nylund Christer	1944	FIN	108.35	170,0	170,0	170,0	DSQ
120+kg								
1.	Alksnitis Valdis	1941	LAT	141.55	200,5-w4	202,5	202,5-w4	202,5
Nation (points)								
1.	Germany	43						
2.	U.S.America	28						
3.	Japan	28						
4.	Sweden	27						
5.	Great Britain	26						
6.	France	21						
Best Lifters of Masters 4								
Rnk	Lifter		Nation		B.Weight		Result	W.Points
1.	Maliniemi Niilo		Sweden		117.65		210,0	121.32
2.	Collins Tom		Great Britain		102.74		193,5	116.55
3.	Alksnitis Valdis		Latvia		141.55		202,5	112.98
女子の部								
Open								
-47kg								
1.	Martin Yvelise	1982	FRA	46.57	80,0	87,5	87,5	87,5
—	Arai Hiroko	1963	JPN	46.51	100,0	100,0	100,0	DSQ
-52kg								
1.	Sandvik Marcela	1974	FIN	51.72	115,0	120,0	125,0-c1	125,0
2.	Nagaya-Shirakawa Kaori	1963	JPN	51.81	125,0	125,0	127,5	125,0
3.	Golubeva Olga	1970	RUS	51.82	115,0	120,0	127,5	120,0
-57kg								
1.	Kotkova Larisa	1974	RUS	55.86	147,5	152,5	155,0-w1	155,0
2.	Petrova Anastasia	1985	RUS	56.50	145,0	152,5	155,0	145,0
3.	Eriksson Nina	1989	SWE	56.48	132,5	136,0	145,0	132,5
4.	Anthouard Melodie	1988	FRA	56.79	120,0	125,0	135,0	125,0
5.	Sroczyk Monika	1992	POL	56.63	110,0	115,0	120,0	115,0
6.	Radwanska Jadwiga	1975	POL	56.59	105,0	112,5	115,0	105,0
7.	Rasmussen Mette	1985	DEN	56.88	90,0	90,0	95,0	95,0
-63kg								
1.	Sommer-von Bachhaus Gundula Fiona	1981	GER	61.28	160,0	165,0	184,0-w	184,0
2.	Hauksdottir Fanney	1992	ISL	61.73	152,5	155,0	155,0	152,5
3.	Rames Maj	1989	DEN	61.77	145,0	145,0	150,0	150,0
4.	Melnyk Tetiana	1985	UKR	62.69	130,0	137,5	147,5	147,5
5.	Arvidson Karolina	1985	SWE	62.41	120,0	130,0	137,5	120,0
6.	Jordan Faye	1982	GBR	61.62	90,0	90,0	100,0	100,0
7.	LaCoe Samantha	1991	USA	62.34	77,5	82,5	90,0	90,0
—	Pochinkina Oxana	1986	RUS	58.39	145,0	145,0	145,0	DSQ
-72kg								
1.	Mizoguchi Kumi	1988	JPN	71.56	150,0	152,5	160,0	160,0
2.	Chistiakova Yulia	1989	RUS	71.93	160,0	167,5	167,5	160,0
3.	Timmers Ankie	1986	NED	71.79	152,5	157,5	162,5	157,5
4.	Wienroither Bianca	1984	AUT	69.57	140,0	140,0	152,5	140,0
5.	Hagen Rotnes Hanne	1989	NOR	71.15	132,5	137,5	137,5	137,5
6.	Werngren Josephine	1976	SWE	65.67	120,0	132,5	152,5	132,5
7.	Wamnes Yvonne	1992	DEN	70.39	130,0	132,5	140,0	132,5
8.	Broxtermann Katja	1986	GER	70.84	105,0	105,0	110,0	105,0
9.	Bak Kathrine	1981	DEN	66.94	90,0	95,0	95,0	90,0
10.	Welcome Amy	1986	USA	69.59	77,5	82,5	85,0	85,0
—	Scholz Ina	1978	GER	66.05	117,5	117,5	117,5	DSQ
-84kg								
1.	Protchenko Lyudmila	1986	RUS	83.70	177,5	182,5	185,0	185,0
2.	Wik Frida	1991	SWE	76.85	145,0	147,5	155,0	155,0
3.	Tichy Alexandra	1990	AUT	83.07	120,0	127,5	135,0	135,0
4.	Kristensen Kathrine	1987	DEN	83.81	127,5	132,5	135,0	127,5
—	Strik Ielja	1973	NED	83.87	180,0	180,0	187,5	DSQ
84+kg								
1.	Hugdall Hildeborg	1983	NOR	123.63	202,5	210,0	210,0	210,0
2.	Van der Meulen Brenda	1978	NED	113.09	185,0	192,5	202,5	202,5

3.	Rehoff Christensen Annette	1965	DEN	126.36	180,0-w2	187,5-w2	195,0	187,5
4.	Bilousova Tetiana	1975	UKR	100.12	157,5	170,0	170,0	157,5
5.	Dzurnak Stephenie	1983	USA	125.68	155,0	155,0	187,5	155,0
6.	Skovgaard Larsen Rie	1985	DEN	140.52	130,0	135,0	140,0	130,0

Nation (points)

1.	Russia	50
2.	Denmark	32
3.	Sweden	28
4.	Japan	21
5.	France	19
6.	Norway	18

Best Lifters of Open

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Sommer-von Bachhaus Gundula Fiona	Germany	61.28	184,0	201.83
2.	Kotkova Larisa	Russia	55.86	155,0	182.73
3.	Petrova Anastasia	Russia	56.50	145,0	169.42

Sub-Juniors

-47kg

1.	Stoianova Olga	2002	RUS	46.43	62,5	67,5	72,5	72,5
2.	Mularczyk Sylwia	2000	POL	46.10	45,0	50,0	57,5	57,5
3.	Kunkel Lauren	1999	USA	45.83	47,5	50,0	57,5	50,0

-52kg

1.	Shteinke Viktoria	1998	RUS	51.45	85,0	87,5	90,0	87,5
2.	Akazawa Ren	1999	JPN	52.00	80,0	87,5	90,0	80,0
3.	Omarkhanova Saniya	1999	KAZ	51.90	75,0	82,5	82,5	75,0

-57kg

1.	Kolesnik Daniela	1999	RUS	56.39	130,5	130,5-ws	140,0-wj	140,0
2.	Chambers Miranda	2000	USA	55.48	90,0	92,5	102,5	102,5
3.	Tkachuk Kateryna	2000	UKR	56.67	75,0	80,0	85,0	85,0

-63kg

1.	Krueger Sonja-Stefanie	1999	GER	62.70	116,0-ws	122,5-ws	127,5-ws	127,5
2.	Dyachenko Taissiya	2000	KAZ	59.77	105,0	112,5	123,0	112,5
3.	Firek Zuzanna	2000	POL	61.86	82,5	82,5	90,0	82,5
4.	Trojnar Aleksandra	1999	POL	62.25	60,0	70,0	70,0	60,0

-72kg

1.	Miles Shelby	1998	USA	71.83	102,5	107,5	117,5	102,5
2.	Kierstyn Amber	1998	USA	69.64	85,0	87,5	102,5	87,5
3.	Rautiainen Elli	1999	FIN	65.62	77,5	85,0	90,0	85,0

-84kg

1.	Nikolayeva Alevtina	1998	KAZ	81.97	95,0	100,0	105,0	100,0
2.	Reyes Melissa	1998	USA	82.00	87,5	97,5	102,5	97,5
3.	Szabo Lili	2000	HUN	72.43	60,0	80,0	87,5	80,0

84+kg

1.	Neitch Elizabeth	1998	USA	91.87	102,5	102,5	110,0	110,0
----	------------------	------	-----	-------	------------------	-------	-------	-------

Nation (points)

1.	U.S.America	51
2.	Russia	36
3.	Kazakhstan	29
4.	Poland	24
5.	Germany	12
6.	Japan	9

Best Lifters of Subjuniors

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Kolesnik Daniela	Russia	56.39	140,0	163.83
2.	Krueger Sonja-Stefanie	Germany	62.70	127,5	137.43
3.	Dyachenko Taissiya	Kazakhstan	59.77	112,5	125.80

Juniors

-43kg

1.	Gorbacheva Natalia	1997	RUS	42.40	35,0	40,0	42,5	42,5
----	--------------------	------	-----	-------	------	------	------	------

-47kg

1.	Warren Sabra	1996	USA	45.54	75,0	85,0	92,5	85,0
2.	Murzina Maryna	1995	UKR	46.79	85,0	90,0	90,0	85,0
3.	Burova Mariia	1995	RUS	46.86	80,0	85,0	87,5	85,0
4.	Hayakawa Kotomi	1995	JPN	46.99	85,0	85,0	90,0	85,0

—	Cruz-Ortiz Sarah	1994	USA	46.07	65,0	65,0	65,0	DSQ
-52kg								
1.	Sroczyk Marta	1995	POL	51.32	105,0	110,0	115,0	115,0
2.	Mingot Audrey	1993	FRA	51.09	105,0	107,5	112,5	107,5
3.	Shkaraputa Iryna	1994	UKR	51.87	90,0	95,0	100,0	100,0
4.	Kettlewell Krystie	1996	USA	50.69	70,0	72,5	75,0	75,0
5.	Graugaard Andersen Clara	1993	DEN	51.40	72,5	75,0	77,5	75,0
-57kg								
1.	Gonchar Ganna	1993	UKR	56.87	122,5	122,5	122,5	122,5
2.	Rikhelgof Tatiana	1997	RUS	56.36	100,0	100,0	105,0	100,0
3.	Sakura Yuki	1995	JPN	56.50	50,0	77,5	82,5	77,5
-63kg								
1.	Ishibashi Akane	1993	JPN	60.91	112,5	117,5	125,0	125,0
2.	Tolegenova Aliya	1996	KAZ	62.22	112,5	120,0	122,5	112,5
3.	Odnokozova Kristina	1996	RUS	60.58	110,0	115,0	115,0	110,0
4.	Grant Gabriella	1994	USA	62.46	100,0	100,0	112,5	100,0
-72kg								
1.	Erokhina Mariia	1995	RUS	71.55	115,0	122,5	130,0	130,0
2.	Briggs Skyler	1995	USA	68.92	117,5	122,5	130,0	122,5
3.	De Vries Maaike	1994	NED	70.57	117,5	122,5	125,0	122,5
4.	Ross Danielle	1995	USA	64.59	115,0	117,5	122,5	115,0
5.	Ingebrigtsen Sverdrup Marte	1993	DEN	71.08	85,0	90,0	95,0	90,0
-84kg								
1.	Davletshina Alina	1996	RUS	73.83	112,5	117,5	122,5	122,5
2.	Shashkova Darya	1997	UKR	78.94	105,0	112,5	120,0	105,0
—	Garza Delicia	1996	USA	83.82	130,0	130,0	130,0	DSQ

84+kg

1.	Fossbakk Kine Helene	1994	NOR	97.02	140,0	145,0	150,0	150,0
----	----------------------	------	-----	-------	-------	-------	-------	-------

Nation (points)

1.	Russia	53
2.	U.S.America	42
3.	Ukraine	38
4.	Japan	27
5.	Poland	12
6.	Norway	12

Best Lifters of Juniors

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Sroczyk Marta	Poland	51.32	115,0	144.82
2.	Gonchar Ganna	Ukraine	56.87	122,5	142.41
3.	Ishibashi Akane	Japan	60.91	125,0	137.75

Masters 1

-47kg								
1.	Yogo Terumi	1969	JPN	46.29	82,5	85,0	90,0	90,0
2.	Miyamoto Tomoko	1967	JPN	46.35	90,0	90,0	92,5	90,0
-52kg								
1.	Ito Chiho	1974	JPN	51.51	80,0	80,0	90,0	90,0
2.	Ito Yumiko	1976	JPN	51.16	60,0	70,0	75,0	75,0
—	Feraud Nathalie	1967	FRA	48.24	82,5	82,5	85,0	DSQ
-57kg								
1.	Mingot Sylvie	1969	FRA	54.73	112,5	115,0	115,0	115,0
2.	Olsen Ann Kristin	1967	NOR	56.53	100,0	115,0	115,0	100,0
3.	Nagae Yumiko	1974	JPN	56.68	70,0	80,0	82,5	82,5
4.	Rummel Martina	1976	GER	54.48	70,0	75,0	80,0	80,0
5.	Brown Janel	1973	USA	55.00	60,0	70,0	82,5	70,0
-63kg								
1.	Thompson Jennifer	1973	USA	62.92	125,0	137,5	142,5	137,5
2.	Iliev Isabelle	1967	FRA	61.28	130,0	135,0	137,5	130,0
3.	Carion Stephanie	1974	FRA	60.68	70,0	105,0	110,0	110,0
-72kg								
1.	Pedersen Annette	1968	DEN	71.62	115,0	117,5	117,5	117,5
2.	Luoto Satu	1969	FIN	67.54	105,0	112,5	112,5	112,5
3.	Rey-Gaudreau Jennifer	1971	USA	66.61	100,0	110,0	115,0	110,0
4.	Sjardijn Carmen	1969	NED	71.76	110,0	115,0	115,0	110,0
5.	Kudo Chieko	1967	JPN	64.56	90,0	100,0	110,0	100,0
6.	Rodgers Beverley	1972	GBR	65.95	95,0	100,0	110,0	100,0
-84kg								
1.	Engskar Eva	1973	NOR	83.34	155,0	165,0	165,0	155,0

2.	Edvall Anna	1976	SWE	83.20	122,5	127,5	455,0	127,5
3.	Bastien Stephanie	1974	FRA	81.34	445,0	115,0	427,5	115,0
4.	Dalia Angelique	1972	FRA	79.20	105,0	110,0	445,0	110,0
5.	Ilves Virve	1970	FIN	75.93	72,5	77,5	85,0	85,0
—	Esbjorn Charlotte	1968	DEN	75.85	95,0	97,5	97,5	DSQ

84+kg

1.	Nokua Katariina	1973	FIN	109.81	140,0	462,5	462,5	140,0
2.	Valkonen Pia	1973	FIN	93.00	445,0	115,0	125,0	125,0
3.	Komatsu Mami	1969	JPN	107.84	105,0	112,5	125,0	125,0

Nation (points)

1.	Japan	50
2.	France	44
3.	Finland	36
4.	U.S.America	26
5.	Norway	21
6.	Denmark	12

Best Lifters of Masters 1

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Thompson Jennifer	U.S.America	62.92	137,5	147.81
2.	Iliev Isabelle	France	61.28	130,0	142.60
3.	Engskar Eva	Norway	83.34	155,0	138.77

Masters 2

-47kg

1.	Friedrich Marion	1965	GER	46.25	90,0	95,0	X	95,0
2.	Shibata Masami	1965	JPN	46.80	40,0	55,0	55,0	55,0

-52kg

1.	Teramura Mika	1962	JPN	51.58	82,5	87,5	92,5	92,5
2.	Lesellier Christine	1963	FRA	50.33	85,0	90,0	92,5	90,0
3.	Carli Sandra	1961	NED	50.08	80,0	82,5	85,0	85,0

-57kg

1.	Sakamaki Tomoko	1965	JPN	55.31	95,0	102,5	124,5	102,5
2.	Kring Pia	1957	GER	55.99	75,0	77,5	77,5	77,5
3.	Blessington Karen	1960	USA	55.76	70,0	75,0	75,0	75,0
4.	Pajuharju Eira	1964	FIN	54.85	67,5	72,5	72,5	72,5

-63kg

1.	Sundvall Riitta	1963	SWE	61.96	105,0	110,0	116,0-w2	116,0
2.	Maciejewski Patricia	1961	FRA	62.50	90,0	95,0	97,5	97,5
3.	Keranen Anja	1959	SWE	63.00	95,0	95,0	400,0	95,0
4.	Ip Wing-Yuk	1961	HKG	60.94	77,5	82,5	87,5	87,5
5.	Coiffard Line	1958	FRA	60.29	77,5	85,0	87,5	85,0

-72kg

1.	Kunkel Iris	1964	GER	69.68	117,5	420,0	420,0	117,5
2.	Uppala Tarja	1965	FIN	66.93	440,0	110,0	447,5	110,0
3.	Haeuser Ursula	1960	GER	70.25	92,5	95,0	400,0	92,5
4.	Einarsen Lene	1963	NOR	71.70	82,5	92,5	95,0	82,5
—	Leroy Aline	1962	FRA	66.64	90,0	92,5	92,5	DSQ

-84kg

1.	Halvarsson Asa	1961	SWE	78.33	97,5	105,0	110,0	110,0
----	----------------	------	-----	-------	------	-------	-------	-------

84+kg

1.	Duhem Leila	1963	FRA	100.18	140,0	155,0	162,5	162,5
2.	Pawlik Barbara	1959	POL	100.54	120,0	125,0	130,0	130,0
3.	Calhoun Paullete	1958	USA	105.01	102,5	112,5	427,5	112,5
4.	Wunderlich Sylvia	1965	GER	85.50	405,0	405,0	105,0	105,0

Nation (points)

1.	Germany	48
2.	France	36
3.	Japan	33
4.	Sweden	32
5.	Finland	16
6.	U.S.America	16

Best Lifters of Masters 2

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Duhem Leila	France	100.18	162,5	135.22
2.	Friedrich Marion	Germany	46.25	95,0	129.25
3.	Sundvall Riitta	Sweden	61.96	116,0	126.16

Masters 3

-52kg

1.	Knutars Aira	1954	FIN	51.37	72,5	77,5	80,5-w3	80,5
2.	Johnson Denise	1947	USA	51.46	32,5	37,5	40,0	37,5

-57kg

1.	Nagao Yuko	1950	JPN	55.35	40,0	75,0	85,0	75,0
----	------------	------	-----	-------	------	------	-----------------	------

-63kg

1.	Komi Yoshiko	1955	JPN	62.92	100,0	105,0	115,5	105,0
2.	Herbin Evelyne	1956	FRA	62.46	82,5	87,5	93,0	87,5
3.	Madsen Lise	1953	DEN	61.82	60,0	62,5	65,0	62,5
4.	Lankau Marianne	1953	GER	60.40	52,5	55,0	62,5	55,0
5.	Macko Leslie	1949	USA	61.21	35,0	40,0	40,0	40,0

-72kg

1.	Takacova Hana	1954	CZE	71.58	110,0	115,0	117,5	115,0
2.	Liege Marie Chistine	1955	FRA	68.65	72,5	77,5	82,5	77,5

-84kg

1.	Sawa Chiyomi	1949	JPN	75.86	100,0	110,0	120,0	120,0
2.	Beninga Anke	1954	GER	73.30	70,0	77,5	82,5	77,5

84+kg

1.	Speth Eva	1954	GER	86.52	100,0	105,0	107,5	107,5
----	-----------	------	-----	-------	-------	-------	-------	-------

Nation (points)

1.	Japan	36
2.	Germany	28
3.	France	18

Best Lifters of Masters 3

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Sawa Chiyomi	Japan	75.86	120,0	113.27
2.	Komi Yoshiko	Japan	62.92	105,0	112.88
3.	Takacova Hana	Czechia	71.58	115,0	112.69

Masters 4**-47kg**

—	Okumura Masako	1930	JPN	46.90	45,0	45,0	45,0	DSQ
---	----------------	------	-----	-------	-----------------	-----------------	-----------------	-----

-52kg

1.	Furukawa Yoshiko	1939	JPN	51.74	60,0	62,5	64,0-w4	64,0
2.	Heligon Francoise	1943	FRA	49.03	52,5	57,5	62,5	57,5
3.	Burns Bebe	1942	USA	50.75	40,0	47,5	50,0	47,5

-57kg

1.	Duboux Andree	1946	FRA	55.46	40,0	45,0	45,0	40,0
----	---------------	------	-----	-------	------	-----------------	-----------------	------

-63kg

1.	Hykova Adina	1943	CZE	61.72	72,5	78,5	78,5	72,5
2.	Nothnagel Ursula	1936	GER	61.50	50,0	52,5	55,0	55,0

Nation (points)

1.	France	21
2.	Japan	12
3.	Czechia	12

Best Lifters of Masters 4

Rnk	Lifter	Nation	B.Weight	Result	W.Points
1.	Furukawa Yoshiko	Japan	51.74	64,0	80.10
2.	Hykova Adina	Czechia	61.72	72,5	79.09
3.	Heligon Francoise	France	49.03	57,5	74.96